

# 令和7年度山口県緩和ケア研修会

と き 令和8年1月18日(日) 9:15~17:30

ところ 山口県医師会6階 会議室

[報告:理事 藤井 郁英]

「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本知識を習得する」ことが、2007年がん対策推進基本計画の目標として掲げられ、2008年健康局長通知「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」が出された。同年度より山口県の委託を受け毎年1回開催している。2017年に新たに開催指針が発出され、講義の一部がe-learningでの事前学習となり、e-learningと集合研修を組み合わせる研修会に変更となった。

18年も継続できている本研修会の開催にあたり、企画責任者の山縣裕史先生をはじめ、ファシリテーターの先生方のご尽力に厚くお礼申し上げます。

この研修会の主な目的は、すべての医療者が①痛みを始めとした、がんに伴う苦痛に対する緩和ケアの基本的な知識、技術、態度を修得し、実践できること。②困った時、抱え込まず、多職種チームに相談する必要性と相談するタイミングを理解すること、である。

今回は、医師15名(うち研修医9名)、看護師2名、介護支援専門員2名、薬剤師2名、医療ソーシャルワーカー2名、計23名が受講された。

集合研修のプログラムは以下の通りである。

## 1. e-learningの振り返り

山口県立総合医療センター 中村久美子

緩和ケア概論、全人的苦痛と包括的アセスメント、がん疼痛治療、呼吸困難、消化器症状、気持ちのつらさ、せん妄、ACP、看取りのケア、家族・遺族ケアなど事前学習した内容についての解説があった。

## 2. 療養体験について

がん患者会「ポポメリー」の方

ご自身の療養体験と若くしてがんで亡くなられた息子さんのことについてお話を伺い、目頭が熱くなった。緩和ケアの大切さを改めて実感した内容であった。

## 3. アイスブレイキング

しのはらクリニック 篠原 正博

グループ学習に入る前のコミュニケーションとして、8名ずつの3グループで、まず2名ずつペアで「プチ自慢」をテーマに2分間自己紹介のあと、グループのメンバーに相手について30秒で他己紹介した。みんな笑顔になり、緊張がほぐれた。

## 4. 全人的苦痛に対する緩和ケア(グループ演習)

山口宇部医療センター 亀井 治人

肺がん、多臓器転移、化学療法が奏効せず、さらに間質性肺炎のため、やむなく治療中止となった典型的ながん性疼痛、病的骨折、排尿障害を有する方について、緩和ケアチームとして1回目のカンファレンスを行うという想定でのグループ演習を行った。各グループにおいて、ファシリテーターの先生の適切な誘導のおかげで、疼痛緩和をはじめ、問題点の整理、対策について、活発な意見交換が行われた。

## 5. 療養場所の選択と地域連携(グループ演習)

たていし内科在宅診療所 立石 彰男

山口大学医学部附属病院 高砂 真明

「4. 全人的苦痛に対する緩和ケア」で想定された方がご希望される退院後自宅での療養の実現に向けて、解決すべき問題点、利用できる制度や

地域の資源、経済的補助についても、医療福祉従事者が顔の見える連携づくりが重要である。緩和ケアの地域の資源を利用できるのは、患者さんの権利であり、「家に帰れない患者はいない！」本人が希望するのであれば、「どうすればできるか」、患者さんにとっての最善をご家族の希望、役割も考慮し、多職種間で建設的な意見を出し合った。

## 6. コミュニケーション（ロールプレイ）

### 山口大学大学院医学系研究科

#### 高次脳機能病態学講座 松原 敏郎

切除不能がんのシナリオをもとに、1グループ3名に分かれ、患者役、福祉・医療従事者役、観察役を順番に担当して、医療者の場合、医師であれば、悪い知らせをする医師の体験、薬剤師であれば、化学療法中に患者から副作用を尋ねられる体験など、職種によって異なるシナリオが準備されていた。求められるコミュニケーションスキルを全員患者目線での擬似体験ができたことは大変有意義であった。

## 7. がん患者等への支援

### すえなが内科在宅診療所 末永 和之

「がん患者等への支援」とは、第3期がん対策推進基本計画（平成30年3月9日閣議決定）では、「尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築」を目指し、「がんと共生」を柱のひとつとした全体目標が明記され、以下に取り組むことが示された。

- ①がんと診断された時からの緩和ケア
- ②相談支援・情報提供
- ③社会連携に基づくがん対策・がん患者支援



- ④がん患者等の就労を含めた社会的な問題
  - ⑤ライフステージに応じたがん対策
- 「がん相談支援センター」について

がん診療連携拠点病院などに設置されており、無料で相談できる。活用できる助成金やサービス、高額医療の手続きなど、がんに関することをなんでも相談できる窓口がある。

治療だけでなく、がん患者が前向きに生きられるよう、寄り添い、思いやり、その方にとって最善の選択ができるよう、患者自身の考えを尊重し、一緒に考える医療者にならなければならない。

緩和ケアは「人権である」と研修会企画責任者の山縣先生は繰り返し強調された。

### 研修会企画責任者

山縣 裕史（山口大学医学部附属病院  
緩和ケアセンター）

### 研修会協力者

末永 和之（すえなが内科在宅診療所）  
立石 彰男（たていし内科在宅診療所）  
松原 敏郎（山口大学大学院医学系研究科  
高次脳機能病態学講座）  
中村久美子（山口県立総合医療センター）  
篠原 正博（しのはらクリニック）  
亀井 治人（山口宇部医療センター）  
高砂 真明（山口大学医学部附属病院  
患者支援センター）

